



## 第4回地域・まちづくり委員会を開催しました！

10月4日（水）に開催した第4回地域・まちづくり委員会は、フードバンクちばの事務所を訪問し、学習会を開催しました。

近年、県内各地にフードバンクが設立され、それぞれの団体が独自の活動をおこない、地域のニーズに応じています。生協ではフードドライブなどを通じてフードバンクの活動に協力しています。第4回地域・まちづくり委員会では、フードバンクちばの高橋晶子さんを講師にフードバンクが必要とされている社会状況の変化、活動の様子や課題、また各団体についての特徴などを学習しました。



フードバンクちば  
高橋晶子さん

### ◇フードバンク活動が広がる背景

・食品ロス → 食べられる食品が、大量に廃棄されている 日本では年間の食品消費量約1億tのうち約1/20にあたる520tが食品ロスとして廃棄されています。事業系のロスは売れ残りや規格外、期限を管理する1/3ルールによるものなどがあります。また家庭系ロスには期限切れの食品の廃棄や、食べ残し、材料の過剰除去などがあります。

・生活困窮者の増大 → 食べるものに困っている人がいる 日本で暮らしていくことが大変な年収120万円以下の相対的貧困家庭は全体の15%以上を占めています。相対的貧困家庭では、教育の格差→学歴格差→雇用格差→所得格差→教育…という貧困の連鎖につながります。またこのような世帯では偏った食生活が続き、精神面や健康面の不調を抱えるリスクが多くなります。

### ◇フードバンクちば

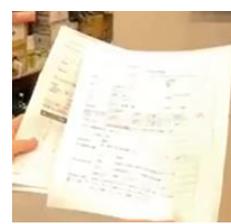
・フードバンクのしくみ 食べ物が余っている人、企業などの食品ロスを無償で集め、食べ物に困っている人に無償で提供します。また期間を決めて県内各所でフードドライブをおこない、フードバンクの認知度向上と食品提供の呼びかけおこないます。フードバンクちばへの食品の寄贈はコロナ以降急増しています。フードバンクちばの配布先は、団体は子ども食堂、養護施設、ホームレス支援など、個人には、社協や困窮者支援団体からの依頼のあった方へ提供しています。フードバンクは緊急支援なので、基本は1回限りの提供となります。活動していく上ではボランティアの確保や活動資金の確保などの課題があります。

・県内フードバンクの広がり 千葉県内にも様々な形のフードバンクが増えてきたことから、千葉県フードバンク団体連絡会が発足しました。エリアごとに核となる拠点を整備しその地域のニーズにあったフードバンク活動の体制をつくり、必要な人々へ支援が行き届くような仕組みを整えていきます。



食品の種類や使用方法、賞味期限などに分類された提供品

提供された玄米を精米し、1人分の2キロに小分け。右奥の冷蔵庫で保管。



支援団体からの食品配送申請書に基づき送る品物を選ぶ。家族構成、調理器具の有無、ライフラインの状況やアレルギーの有無などの情報が書かれている